

一般社団法人日本サンゴ礁学会
2018/19 年度 代議員総会 議事録

1. 日時： 2018 年 11 月 22 日木曜日 17 時 00 分－19 時 00 分
2. 場所： 沖縄県青年会館 1 階珊瑚の間
3. 出席役員： (理事) 日高 道雄, 藤田 和彦, 梅澤 有, 灘岡 和夫, 山野 博哉,
茅根 創, (監事) 鹿熊 信一郎, 野中 正法

4. 議事の経過の要領及びその結果

(1) 議長および議事録作成者の選出

互選により、議長に岡地 賢氏を、議事録作成者に久保田 賢氏を選出した

(2) 議決権総数の確認と議事の開始

出席代議員

議決権のある総代議員数	24 名
出席代議員数	16 名
委任状提出者数	7 名
議決権総数	23 名

以上のとおり、出席社員数が定足数に至ったことから、議長は開会を宣言し、下記のとおり議事に入った。なお、出席および欠席した代議員および事務局担当者は以下のとおりである。

出席者：Agostini Sylvain, 磯村尚子, 梅澤 有, 岡地 賢, 菅 浩伸, 久保田 賢, 栗原晴子, 佐藤崇範, 鈴木倫太郎, 中村隆志, 灘岡和夫, 山野博哉, 深見裕伸, 藤田和彦, 湯山育子, 渡邊 剛
欠席者：(委任状あり) 井口 亮, 井龍康文, Casareto Beatriz, 中村 崇, 樋口富彦, 藤村弘行, 渡邊 敦, (委任状なし) 浪崎直子

(3) 第 1 号議案 2017/18 年度事業報告 (案) について

議長は、日高 道雄 会長に本件についての説明を求めた。会長は、資料に基づき説明し、その後以下のような質疑応答が行われ、承認された。

(質問：佐藤代議員) 定款第 17 条の代議員の権利として「入会の基準及び会費」が挙げられているが、外国会員の会費等を変更したことに對して、代議員会で諮る必要があったのではないか。

(回答：日高会長) 定款の方が上位なので、本来なら代議員に諮るべきであった。

(質問：佐藤代議員) 特に、今回理事会の細則決定を変更することを要求するものではないが、決定までの経緯を教えてください。

(回答：日高会長) 第 4 回理事会までのメールで議論を重ねて決議しようとしたが、結果的に全員の統一的な見解は得られなかった。代議員総会への回答案は作成していたものの、理事の確認を取るタイミングが第 4 回理事会と重なってしまったため、お知らせが遅くなってしまった。

(質問：佐藤代議員) 外国会員を 3 年間免除というのはどのような獲得戦略を想定しているのか、学会会員の割合に影響しないのか。

(回答：日高会長) かつては、海外会員へ和文誌を送付していて 8,000 円を徴収していたことがきっかけであり、留学生の帰国後に高額な会費のために退会されてネットワークが途切れることを懸念しての対応である。学会会議の対応については、現時点で未対応である。

(質問：佐藤代議員) 外国会員だけでなく、国内の会員のメリットもきちんと検討してほしい。

(回答：茅根理事) 国内会員の拡大は重要な課題であるが、具体的な案の策定が遅れており早急に進めたい。学会会議については、申請時の割合が重要視されるので、特に問題にならないと考えている。

(回答：灘岡理事) 外国会員の人数は圧倒的に少ないのが現状である。海外との人的交流をどのように図るかを念頭に置いた対応と考えている。外国からの参加者について者自体の渡航にかかる負担も考慮している。今後は留学生の学生会員を含む外国人会員に向けたサービスを立ち上げることを検討している。

(質問：岡地代議員) ISRS の支部の設立並びに APCRS との関連について説明願いたい。

(回答：灘岡理事) 全体的な流れとして、ラテンアメリカや中東に支部を設立

する話が持ち上がり、アジア太平洋支部の設立についても、話題に上っている。支部設立についてはいくつかの要件が設定されているが、現状では4年に1回の割合でシンポジウムを開催しているだけのAPCRSでは、その受入れには不十分である。現在の考えでは、JCRSが支部設立を引き受けるというより、リーダーシップを取り、アジア各国の連携の下で設立できるのではないかと考えている。APCRSとの連携も模索しているが、現状ではうまくいっていない。今後の展開として、APCRSに競合しないサンゴに限定しない沿岸生態系全体をカバーするような地域シンポジウムの開催を検討している。

(質問：岡地代議員) APCRS とのチャンネルをもう少し増やす方向性を検討すればいいと思うが、見解をお伺いしたい。

(回答：灘岡理事) 国際連携委員会の中でも意見が統一されていない。

(質問：佐藤代議員) 第4回理事会資料7の理事会における議論に関する申し合わせ案について、メール代議員総会の開催についても決定されているが、代議員総会の関わりを制限することにはならないのか説明してほしい。

(回答：久保田事務局長) 2017/18年度の電子メールを使った理事会での議論や代議員への意見徴収の過程で、理事会での承認前に代議員会に諮ったことにより意見集約に時間がかかり、結果的に代議員への情報提供の機会が少なくなった。質問の申し合わせについては、理事会への原案の提案前に必要に応じて代議員への意見徴収をすることを定めたものであり、円滑な議論を進めるための方策である。

(4) 第2号議案 2017/18年度決算(案)について

議長は、日高道雄会長に本件についての説明を求め、会長は久保田賢事務局長に本件について依頼した。野中監事より、10月25日に実施した事業及び会計監査の結果、適正であることが報告された。特に質問はなく、満場一致をもって原案は承認された。

(5) 第3号議案 2018/19年度事業計画(案)について

会長は、資料に基づき説明し、その後質疑応答が行われた。深見代議員、アグスティニーニ代議員、栗原代議員等から、代議員会直前に資料を提示されて、全ての議題について一括で議決するのは困難であるとの意見が出された。岡地代議員より、この点を解消する方策の一つとして、代議員総会資料配布から開催までの2週間で質疑があれば代議員会 ML を利用して質問し、必要に応じて理事が回答するか代議員会で諮ることが提案され、これを付帯意見として原案が承認された。

その他の質疑応答については以下のとおりである。

(質問：アグスティニーニ代議員) ISRS が主導的に支部設立することとなっているのか。

(回答：灘岡理事) 東南アジアの関連各国での経済的基盤がしっかりしてきているので、必ずしも JCRS だけが先頭を切って進めるというようなことは考えてない。

(質問：栗原代議員) APCRS との調整について難航しているようなので、これまでの対応者以外が交渉した方が良いのではないかと。

(回答：灘岡理事) 現在、APCRS との窓口となっている方が、近いうちに本職を退職されるということなので、次に担われることが予定される方に JCRS との連携についての交渉について依頼したが、ネガティブな返事しか得られなかった。

(質問：アグスティニーニ代議員) 国際連携の方針を重要なものに絞った方がよいのではないかと。

(回答：灘岡理事) 国際連携委員間でも意見の統一が見られない。個人的には単に支部を立ち上げるだけでなく、ネットワークの立ち上げを優先的に進めないと、機能しないと考えている。

(質問：中村隆志代議員) ネットワークとは具体的に何をするのか。

(回答：灘岡理事) メールベースでの議論となると思うが、広報委員会が発行しているようなニュースレターの電子版を共同で作成するようなことを考えている。

(質問：中村隆志代議員) 国際連携委員の増員を明記してはどうか。

(回答：灘岡理事) 国際連携委員を増やすことと海外ネットワークを立ち上げ

ることは、同等であると考えている。残念なことに肝心の JCRS の会員から国際連携委員の希望者が少ないのが現状である。このような現状を踏まえ、今回の 2018/19 年度事業計画案での提案はあくまでも検討を進めるということにしている。

(要望：佐藤代議員) 2018/19 年度事業計画に関しても、今回の総会資料より詳細な各委員会の資料を本代議員会後できるだけはやめにお送りいただき、次回の総会資料と合わせて確認できるようにしていただきたい。

(6) 第 4 号議案 2018/19 年度予算案について

議長は、久保田 賢 事務局長に本件についての説明を求め、質疑応答が行われた。特に質問はなく、満場一致をもって原案は承認された。

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長および議事録作成者が署名捺印する。

2018 年 11 月 25 日

一般社団法人 日本サンゴ礁学会 2018/19 年度 代議員総会

議長・議事録作成者	議長	岡地 賢	㊟
	議事録作成者	久保田 賢	㊟